



【実施報告書】 海の祭ismプロジェクトin釜石

一般社団法人マツリズム

最終更新日：2020年4月10日



目次

- 報告書要点 (p.2)
- プログラム概要 (p.3)
- 集客について (p.4)
- 祭り当日のプログラムについて (p.5-9)
- 事前事後アンケートの結果 (p.10-134)
- PRについて (p.15-17)
- プログラム振り返り (p.18)
- 実施報告会について (p.19-20)

目的・目標に対する成果

<目的①>

海にまつわる物語を持つ祭りでの体験や、漁師や祭の担い手など地元の方々との交流を通じて、海への好奇心を高めてもらうこと



事前事後アンケートで独自に「海」の意識変容について調査した結果、海に対して大きく意識が変化したことがわかった。海の祭りを体験したからこそその深い気付きを得た参加者が多く、このプログラムを通して海を学び、海への関心が高まったと言える。

<目的②>

地域の祭りの趣きを感じその大切さを体感するとともに、地域における本質的な価値を感じてもらい、それに留まらず、海と祭の関連性や海と釜石の関連性について学び持続可能なコミュニティのあり方を考え、行動を起こすためのきっかけとしてもらうこと



参加者が祭りの背景を学び、祭りの始まりから終わりまでを地域の人と共に作りあげ盛り上げた経験を通じて、その価値を体感してもらえた。また、体験を通して地域コミュニティについて考えを深める参加者も多く、その内一人には釜石まつりとSDGsの関係について修士論文のテーマとして執筆された。

<目標>

参加人数10～15人



14人が参加（内3人はプログラム一部参加） ※詳細参照：p.4

プログラム概要

プログラムの流れ

2019/10/16

web説明会 兼
オリエンテーション

2019/10/19,20

釜石まつり本番

振り返り会

参加対象者

大学生

コンテンツ要素

➤ 学ぶ：

- ① 祭りを通じて釜石と海について学ぶ
- ② 祭りと海の関連性（祭りのルーツなど）を学ぶ
- ③ 震災を経験した釜石の人々の海に対する想いを学ぶ
- ④ 仲見世商店街で地域コミュニティの活動を学ぶ

➤ 体験する：雨天のため1日目は曳舟祭り中止

- ① 祭りの担い手から祭りに対する想いについて話を聞く
- ② 仲見世商店街にて地域おこしのため移住した起業家の話を聞く
- ③ いのちをつなぐ未来館を見学し、震災から復興の話を聞く
- ④ 地元の海の幸を食べながら漁師と交流する
- ⑤ 尾崎神社例大祭での神輿担ぎ、行列参加



参加者について

参加募集チラシ



**大学生15名限定
特別価格にて実施!**

海の祭から地域の『ルーツ』を探る in 釜石 ～海の祭ismプロジェクト2019～



「将来、地元貢献したい、地域で何かをしたい。
でも、どんな方法があるんだろう？」
世の中にはたくさん地域があり、それぞれの地域に固有のルーツがあります。
海の町として栄えた釜石の祭を通じて、地域のルーツを探り、自分らしい地域への
関わり方を考えてみませんか?

#地域活性
#海と伝統文化
#復興

日程 2019年10月19日(土)、20日(日) ※1泊2日

場所 岩手県釜石市(集合・解散:釜石駅周辺)

参加申込先 <http://matsurisum.uminohi.jp/recruit/>
〈申込締切〉10月7日(月)

お問い合わせ info@matsurisum.com
または、Matsurisum Facebookメッセージ
(m.me/matsurisum.jp)にメッセージください。

「昨年の釜石まつりの様子は
こちらからご覧ください」



【URL】
<https://www.youtube.com/watch?v=3250mKtjgk0>

【主催】一般社団法人マツリスム

【共催】尾崎100年学舎、(株)パソナ東北創生

【後援】(公財)日本財団、釜石市

プログラムの背景

「魚とラグビーの町」と言われる釜石。かつては海の恩恵を預かり、多くの漁師が海で稼ぎ、生活をしていました。しかし、年々漁師は減り、海とのつながりが薄れてきています。その結果、海の祭である「釜石まつり」の担い手も減少し、今後の祭の継承について課題を抱えています。このプログラムでは、海の祭である「釜石まつり」への参加や漁師の仕事場見学、地域の方との交流を通して、釜石の過去と今を知り、地域のルーツを探ってその持続可能性を模索していきます。

プログラムの流れ

- 事前オリエン (10月上旬)
 - ※事前オリエンテーションは参加学生の都合により、開催場所・日時未定となります。
 - (当日のライブ配信や後日の録画共有も実施予定です)
- 祭り当日 (10月19日・20日)
 - ※1月に東京にて報告会を開催予定。(任意参加)



伝統の祭りの担い手として参加



地元の社康活動さんと交流



地域文化の持続可能性を探る

プログラム概要

- 対象・定員: 大学生15名 ※申込締切: 10月7日(月)
- 集合・解散について
 - <集合> 10月19日(土) 9:00~11:00 釜石駅 ※参加者の到着時間により調整いたします。
 - <解散> 10月20日(日) 18:30 釜石駅周辺
- 参加費: 3,000円 ※祭り当日お支払い
 - ※参加費は保険料、現地交通費、1日目の懇親会費を含みます。
 - (15,000円相当のところ、大学生向け特別プログラムとして割引き実施!)
 - ※釜石駅までの交通費・宿泊費・1日目を除いたの費用は自己負担となります。
- ご自身で準備いただくもの
 - ・上下白の服(祭衣袴の下に着用) ※お持ちでない場合は、こちらで無料で用意いたします!
 - ・白足袋
 - ・2本指または5本指ソックス
 - ・タオル等の両用(神楽を担ぐ男性のみ)
 - ・貴重品を入れる巾着袋などがあると便利です。
 - ※釜石までの移動手段は各自でご確認ください。
 - ※雨は屋外の観覧席を別途ご紹介します。
 - ※釜石周辺、在学中で参加を希望の場合は、別途ご相談ください。

現地でのスケジュール

※変更可能性あり

1日目	2日目
09:00~11:00 集合→オリエンテーション	08:00~16:30 釜石まつり参加
12:00~14:00 活用まつり観覧	17:00~18:30 尾崎100年学舎、市内遊園
15:00~18:00 漁師さんや地元の人との対話(予定)	18:30 神楽記念(男性)・行列参加(女性)
18:00以降 海の卒を頂きたいお懇親会 → 宿泊	17:00~18:30 祭り振り返り
	18:30 解散

プログラム実施体制

【主催】 一般社団法人マツリスム (<http://www.matsurisum.com/>)
「祭りのおかげで町を元気に」をモットーに、地域の祭の担い手を応援する団体です。担い手不足に悩む地域の個人や団体の両者や外国人をつなげ、祭文化の次世代への継承と地域活性化に貢献します。

【共催】 尾崎100年学舎、(株)パソナ東北創生

【協力】 (公財)日本財団、釜石市

※本プログラムは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、次世代の子を産む対象に海の祭りを通して海の大切さを伝える取り組みです。

主催者 

一般社団法人マツリスム 代表理事 大塚 学
祭りの楽しさを伝え地域をつなぐ「マツリテーター」として、祭りの本質を体験してもらうプログラムを4年間300回以上380名に対して提供している。

共催者 

尾崎100年学舎 代表 久保 直樹
尾崎100年学舎がフィールドとした観光プログラムの企画・運営を行う。昨年から仕掛けた職員の仕事を始め、漁業と観光を軸にした尾崎半島漁港の新しい働き方づくりに取り組んでいる。

最新情報はこちらから! (Facebookのページ)



【URL】
<https://www.facebook.com/matsurisum>

参加者属性・参加ルート

No.	属性①	属性②	人数	参加ルート
1	早稲田大学	政治経済学部経済学科 先進理工学研究科 社会科学部	3名	前年度参加者 前年度参加者からの紹介
2	明治大学	農学部	1名	前年度参加者からの紹介
3	岩手大学	農学部水産システム学	4名	前年度参加者からの紹介
4	岩手大学	人文社会科学部ゼミ生	3名	大学教授 経由
5	盛岡大学	文学部社会文化学科	2名	現地コーディネーター 経由
6	芝浦工業大学	理工学研究科	1名	大学教授 経由

祭り当日のプログラムについて

イベント概要

イベント名称	海の祭から地域の『ルーツ』を探るin釜石
開催日時	2019年10月19日（土）、20日（日）
開催場所	岩手県釜石市
参加対象者	大学生
参加者数	参加者14名、スタッフ4名
企画関係者	一般社団法人マツリズム 釜石市、尾崎100年学舎、株式会社パソナ東北創生

実施内容

1日目の曳舟まつりは大雨の影響で中止。地元の様々な人達との交流を中心とした学習プログラムへ変更した。

プログラム参加前と参加後にオリジナルの海と祭りに対する意識調査を行い、2日間の学習と体験を通じてどのような意識変容があったかを共有した。

（詳細参照：p.10-14）

1日目	<ul style="list-style-type: none">・オリエンテーション（事前アンケート「海」と「祭」について）・曳舟祭りの説明・海図と牡蠣養殖の話を聞きながら海の幸ランチ・仲見世商店街で地域おこしのために移住した起業家との交流・仲見世商店街で釜石まつり担い手との交流・地元漁師の人と参加者で懇親会・民宿前川に宿泊
2日目	<ul style="list-style-type: none">・釜石まつり 市内渡御：神輿担ぎ、行列参加・振り返り会（事後アンケート）

祭り当日のプログラムについて

配布物

しおり、海プロ説明リーフレットを配布しました。

<しおり>



海の祭から地域の『ルーツ』を探るin釜石

しおり

2019年10月19日,20日

スケジュール

※大雨により曳舟まつりが中止となる可能性があります。
※雨天時や祭りの進行具合により一部スケジュールを変更する可能性があります。
※行程中の移動は基本マイクロスにのみ行います。

<1日目> 曳舟まつり

時間	スケジュール
11:00	釜石駅前集合
12:00	釜石港にて曳舟まつり観覧
13:00	魚河岸テラスHIMAYURIにて昼食
14:30	釜石大観音訪問 (雨天時は仲見世園遊園地カフェ)
16:00	いのちをつなぐ未来館見学
17:15	民権前川到着 休憩
18:00	総集會
20:00	総集會終了

<2日目> 神輿 市内渡御

時間	スケジュール
06:00	民権前川集合 (観覧会の人には6:30ピックアップ)
07:00	尾崎神社斎庭にて寄替え
08:00	神輿以外の行列出発
08:30	神輿出発 (市内渡御)
11:00	郵便局到着 昼食
14:00	釜石港にて遠御祭りと観覧
16:00	尾崎神社にて寄替え 衣裳返却
17:00	青森ビルにて振りの会
18:30	解散

マップ



釜石駅前集合

魚河岸テラスHIMAYURI

ミッション

【釜石と海】【祭りと海】【私と海】の関係性を探れ！

この2日間を通して見聞を広め、自分なりの答えを見つけよう



あられ、えみ、たかし、きょうへい(なとりくん)、なつこ(はっちゃん)、まき、まえばわくん、わいわい、ゆうき、れい、やざきくん

プログラム運営メンバー

一般社団法人マツリズム 代表理事 大原 孝
祭りの楽しさを伝え地域をつなぐ「マツリテーター」として、祭りの本質を体験してもらうプログラムを4年連続30回のべ380名に対して提供している。

尾崎100年守舎 代表 久保 豊也
尾崎半島をフィールドにした観光プログラムの企画・運営を行う。昨年からは社員資格の仕事を始め、漁業と観光を軸にした尾崎半島の新しい働き方づくりに取り組んでいる。

マツリズムスタッフ みつちゃん、マツリズムスタッフ ゆっぽん、マツリズムスタッフ 伊藤ゆき

企画実施団体

一般社団法人マツリズム
「祭りの力で人と町を元気に！」をモットーに、地域の祭りの担い手を応援する団体です。担い手不足に悩む地域の祭りや都市部の若者や外国人をつなげ、祭り文化の次世代への継承と地域活性化に貢献します。

日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、次世代の子ども達を対象に海の祭りを通して海の大切さを伝える取り組みです。

📞緊急連絡先
大原：080-6550-7084
伊藤：090-4529-7107

※当日変更内容

- ・1日目の集合場所をホテルフォルクローロ三陸釜石ロビーへ変更
- ・1日目曳舟祭りが中止のため雨天時スケジュールへ変更

祭り当日のプログラムについて

当日の様子

<1日目>

祭り担い手・移住者と交流



復興伝承館で震災と復興を学ぶ



懇親会（牡蠣漁師との交流）



<2日目>

市内渡御（神輿担ぎ）



集合写真（釜石港にて）



振り返り



祭り当日のプログラムについて

学びを深める取り組みについて

<振り返り会：全プログラム終了後 青葉ビルにて>

1. 2日間の行程の振り返り
2. ワークショップ形式でテーブルごとに「海」「祭」「釜石」について2日間で得た気づきをまとめ、全体に共有
3. 事後アンケート記入後、口頭で全体に共有

「釜石と海」

- ・漁師にとっては生活の糧そのもの、生業そのもの、だから信仰の対象そのものになるんだなと感じた
- ・被災した人は海を恐れているのに、釜石の人達は海を怖がってなくて意外だった
- ・釜石にとって海は仕事の場、三陸の漁場という恩恵を受ける反面津波など負の面もありその中で発展してきた、釜石と海は切っても切れない関係
- ・海はたくさんの恩恵を与えてくれ生活と密接につながっている一方で、畏怖・畏敬の対象でもあることから神様の信仰が生まれた、海は文化そのものだと思う
- ・海は食やレジャーで恩恵を感じるが脅威でもある、祭りを通して海のありがたさを感じたり海について考え直すのだと思う

「釜石まつり」

- ・神輿に対して手を合わせて拝んでいる人が街中にいっぱいいた
- ・みんなで楽しむのが祭りと思ってたけどこんな厳かな祭りがある事を知った
- ・小さい規模で完結しているものが一緒くたになった独特の文化がある
- ・熱気があってエネルギッシュ、地元の人にとってアイデンティティである
- ・祭りは明快で、みんなでエネルギーを使える良い文化だと思う
- ・同じものが繰り返されるのがすごいと思った、お弁当も去年と一緒に繰り返されることで懐かしいものになるのかも（2年連続参加者）
- ・鎮魂や復興祈願の意味があって、祭りにはその想いを釜石全体へ伝える力がある

コメント

※プログラム体験前の海と祭に対する意識を調査

私にとって海とは

- ・自分が今の世界（水産システム学専攻）に至ったきっかけであこがれの存在
- ・遊び場、やすらげる場所、学ぶ場所
- ・とても珍しいもの（長野県出身者）
- ・食とレジャーでかかせないもの
- ・青くて魚が住む場所
- ・時に厳しく、たくさんの命を育む母
- ・暮らしに必要不可欠な存在
- ・世界をつなぐもの
- ・綺麗な景色が見られる場所
- ・釣りをする場所、みんながはしゃげる場所
- ・日頃の悩みを洗い流してくれる場所

私にとって祭とは

- ・思い出作りのイベントで、その地域の雰囲気味わえる
- ・地域の人と他県の人との交流の場で楽しいイベント
- ・騒げる場所
- ・昔からある地域に根付いたもので地域住民が協力して成し遂げる
- ・宗教と関係のあるもの
- ・エネルギーでわくわくするもの
- ・熱気と活気にあふれる地域の宝
- ・町とつながるもの
- ・文化、伝統の継承
- ・参加する側も見る側も楽しめるもの
- ・みんなが一つになって一生懸命になれるもの
- ・非日常、本当の自分を解放できる場所であり時間

事後アンケート（独自調査）の結果

コメント（海）

※プログラム体験後の海と祭に対する意識を調査。

私にとって海とは

- ・たくさんの恩恵を与えてくれる故郷そのもので、生活と密接につながり文化を創造する
- ・生命を与えたり奪ったりする人間以上のもの
- ・山（木々）とのつながりを感じた
- ・被災地である釜石の人々は海を憎まず祭りの日には海に足を運び海の神様に手を合わせる、切っても切れない釜石と海のつながりを感じた
- ・沿岸に住む人にとっては生活の糧でもあり信仰の対象にもなる
- ・食料を人間に供給してくれる命の源で、漁業という生業のフィールドそのもの
- ・釜石にとって根強く、危険でもあり感謝の対象でもある
- ・嬉しい事も悲しい事も全て受け容れてくれる場所
- ・津波で家や家族を失ってつらい思いをしても、生きていくために海と向き合っている釜石の人々と海はお互いを受け入れ合っているのだと思う
- ・大きな脅威を持っている海と日頃から接している人々は、年に一度の祭りで海に対する気持ちや感謝、信仰を考え直すものなのだと思う
- ・辛い過去があってもたくさんの人が利用し、生きがいになっているもの
- ・釜石の人々にとって海とは誇りであり、大切なもの

海に対する意識変容

- プログラム参加前は、海＝「食」・「レジャー」と認識している参加者が多かったが、実際に被災地釜石で見聞きし、祭りの内側から釜石の人々の海に対する想い（信仰心・感謝）を肌で感じたことにより、恩恵と脅威そのものが海であり、偉大な存在であるという意識に変化し、「感謝」と「畏敬」の感情を抱くようになった。
- 海と釜石の人々の密接なつながりに気づき、海は地域の文化を創造し育て、文化そのものであると意識が変化した参加者もいた。

事後アンケート（独自調査）の結果

コメント（祭）

※プログラム体験後の海と祭に対する意識を調査。

私にとって祭とは

- ・ 地域の人々のアイデンティティ
- ・ 将来地域外に出て行っても祭りがある限り絶対に帰ってくると確信した
- ・ みんなで一方向にエネルギーを投じる事のできるまたとない機会
- ・ 小学生から高校生までの子供たちが学年を超えて交流、気遣いあっている姿が印象的だった
- ・ 毎年同じことを繰り返し（自分の幼少期にしてもらったことを大人になったあと自分が繰り返す）懐かしいものになる
- ・ 犠牲者の鎮魂と復興祈願など想いを地域全体に伝える力が祭りにはある
- ・ みんなが集まって楽しむ認識だったが、祭りをやる意義を持って参加する楽しさを知ることができた
- ・ 日常とは異なるハレの日で自分の地域への愛着や日常の生活、仲間との絆を確認する場
- ・ 神様のありがたみを改めて気づかされるもの
- ・ 意味を持つものでただ騒ぐものではない事を知った
- ・ たくさんの人達で協力し地域が団結しないと成り立たないもの
- ・ 1つの目的（復興や継承）のために様々な人の想いが込められているもの
- ・ 祭りに参加したことで地域にとっての祭りの意味を知ろうと思うきっかけになった

祭に対する意識変容

- プログラム参加前は、祭＝「楽しいイベント」や「伝統文化」と認識していた参加者が多かったが、祭りの内側に入る事で祭りに関わる釜石の人々の様々な想いに触れ、「地域」と「人」にとって重要なものであり、アイデンティティであると気づきを得ていた。
- 被災して悲しい思いをした人が多く暮らす釜石で、年に一度祭りがあることで海の神様に感謝をし、畏怖だけではない海に対する想いを改めて考えて感じる貴重な機会となっていたと感じた参加者が多かった。

【成果】メディア掲載

No.	メディア名	媒体手段	放送日・掲載日
1	復興釜石新聞	新聞	2019年10月23日
2	IBC岩手放送	テレビ	2019年10月31日

➤ 復興釜石新聞



➤ IBC岩手放送



【成果】オリジナルPR動画の作成



<プレスリリース日> 2019年10月3日

Press Release

2019年10月吉日

報道関係各位

今でしか、ここでしか体験できない「釜石祭り」
「海の祭りから地域の『ルーツ』を探る旅 in 釜石」参加者募集
2019年10月19日(土)～20日(日)開催 於・釜石市

一般社団法人マツリズムは、「海の祭 ism プロジェクト」として地域コミュニティの持続可能性、震災復興に関心のある大学生 15 名を対象に 2019 年 10 月 19 日（土）、20 日（日）の 2 日間で「地域に根付いた祭りから『持続可能性』を考える in 釜石」を開催いたします。このイベントは、次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人とながら「日本財団「海と日本プロジェクト」」の一環です。

鉄と魚とラグビーの街として名高い釜石で毎年 10 月に開催される海の祭り「釜石祭り」。昔は海の恩恵をあずかり、多くの漁師が海で暮らして生活をしてきました。しかし、年々漁師は減り、海とのつながりも薄れてきています。現在では、この「釜石祭り」の担い手も減少の一途をたどっており、今後の継承に課題を抱えています。本プログラムでは、大学生が海の祭りである「釜石祭り」の参加体験や関係者への聞き取り等を通じて、震災経験を含めた釜石の過去と今を知り、海との繋がりを感ずることを通じて、地域コミュニティの持続可能性を探求していきます。

本来「地域活性化」に関する仕事に就きたい、あるいは「地元で貢献したい」「日本の祭りを体験してみたい」、きっかけは何でも構いません。ぜひ、この「釜石祭り」に参加してみませんか？

【概要（一般の方向け）】

イベント名	海の祭りから地域の『ルーツ』を探る旅 in 釜石
開催日（期間）	2018 年 10 月 19 日（土）～20（日）
開催場所	若手漁釜石市（集合・解散：釜石駅周辺）
交通手段	（例）東京駅より東北新幹線「はやぶさ」で「新花巻」駅まで、「新花巻」から JR 釜石線で「釜石」駅
問い合わせ先（電話番号）	info@matsurism.com
料金	3000 円 ※釜石までの交通費、宿泊費は含みません
予約・申し込みの有無	予約有・フォームから申し込み（ URL ）
対象者	大学生 10 名程度
内容	大学生が海の祭りである「釜石まつり」の参加体験や関係者への聞き取り等を通じて、釜石の過去と今を知り、海との繋がりを感ずることを通じて、地域コミュニティの持続可能性を探求していきます。
申し込み URL	http://matsurism.uminohi.jp/recruit/

現地でのスケジュール

<19日(土)>
9:00～11:00 集合、オリエンテーション
12:00～14:00 曳舟まつり観覧
15:00～18:00 地元漁師さんたちとの対話、復興伝承館などの訪問（予定）
18:00以降 海の幸をいただくながら懇親会

<21日(日)>
8:00～16:30 釜石まつり参加（昭隆神社参拝、市内海辺、神楽道（男性）、行列参加（女性））
17:00～18:30 振り返り
18:30 解散

自身で用意するもの

- ・上下白の服（景衣装の下に着用）
- ・白足袋
- ※以上 2 点をお持ちでないものはマツリズムにて無料でご用意いたします
- ・2 本指または 5 本指ソックス
- ・タオルなどの肩当て（神輿を担ぐ男性のみ）
- ・貴重品を入れる巾着袋（任意）

企画主催団体概要

団体名称：一般社団法人 マツリズム
本社所在地：東京都中央区日本橋區横町
電話番号：050-5319-9350
代表理事：大原 学
設立：2016年11月
URL：http://www.matsurism.com/
活動内容：「祭りの力で人と人を元気に！」をモットーに、地域の祭りの担い手を応援する団体です。担い手不足に悩む地域の祭り・都市部の若者や外国人をつなげ、祭り文化の次代への継承と地域活性化に挑戦します。

<お問い合わせ先>
一般社団法人 マツリズム 広報代理担当：大竹
電話：080-1381-8713 メールアドレス：nanako.otake@uminohi.jp

マツリズムは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、次世代へ海を引き継ぐため、海を介して人と人とながらご活動ごを目的として、本事業を実施しています。

振り返り

- 今年は台風19号の影響で被災した地域へ足を運ぶ報道関係者が多い中、広報担当者の当日までの粘りの甲斐があり、幸いIBC岩手放送と復興釜石新聞社の2社に取材・掲載していただくことができた。
- 岩手日報にも取材していただけたが、8年ぶりに復活した大神輿の記事がメインとなり本体験プログラムの内容掲載は見送られてしまった。今後は広報担当者との連携やプログラムの魅力が分かりやすくアピールできるメディア向け資料の準備を入念に行う必要性がある。

【成果】修士論文提出（プログラム参加学生執筆）

➤ SDGs の実践と課題解決を通じた自治体の施策推進に関する研究 芝浦工業大学大学院 理工学研究科

※海の祭ism体験プログラムが含まれるページの文章のみ抽出

海の祭から地域のルーツを探る in 釜石～海の祭ism プロジェクト 2019～

➤ プロジェクトの概要

地域の方との交流を通して人口減少下における地域創生について考える機会として、2019年10月19日、10

月20日の2日間、一般社団法人マツリズムが主催した「海の祭から地域のルーツを探る in 釜石～海の祭ism プロジェクト 2019～」に参加した。

このプロジェクトでは、他地域に住む大学生が祭りの担い手として釜石まつりに参加している。初日に曳舟まつりを予定していたが、中止となった。初日は地元の方の話を聞くことができた。2日目は神輿の行列の一員として釜石まつりに参加した。

➤ 神輿メンバーの構成

今年の神輿担ぎは與衆会から約20名、地元の工場業者の熊谷組から約20名、近隣の神社から約15名、マツリズムから約10名、その他約15名の計約80名で構成されている。重さ1tの神輿を運ぶのに約20名のグループを複数作り、ローテーションを回しているため、80名は妥当な数字とも言える。與衆会を除く約60名は、地元の間人ではなくボランティアとして人員を確保している。

➤ ヒアリング調査

① 現地でのヒアリング

地域おこし協力隊の神脇さん、與衆会（祭りの神事を行う団体）会長の川畑さんから、地域の抱える課題や釜石まつりについて話を聞くことができた（図4.5、図4.6）。主に以下の内容について話を聞いた。

- ・釜石まつりの歴史や背景
- ・釜石まつりの魅力
- ・地域が抱える課題（担い手不足）

② 電話でのヒアリング

マツリズムのイベントに参加した後、一般社団法人「釜石観光物産協会」に電話でヒアリングを行った。以下のことが分かった。

- ・祭りの参加者は近年減少傾向にある。
- ・釜石まつりの事業費は約500万円弱（市役所からの助成金）
→芸能団体の呼び込み（市内、市外）、出店の手配、市の情報誌、ネットでのPR等に投資
- ・釜石まつり実行委員会（釜石観光物産協会）が祭りの運営の舵を取っている。政治と宗教の絡み、特定宗教の職員から、行政は直接的に祭りに関っていない。

③ ヒアリングからの読み取り

- ①、②のヒアリング調査から以下のことが読み取れる。
- ・よそ者の重要性
→避けられない人口減少により1次産業や神輿の担い手が不足しているオープンシティ戦略と同様に、よそ者（＝つながり人口）に着目している
- ・インタープリターの重要性
→祭りが複雑であるため、祭りの本質（歴史、仕組み、細部）を語るの人は少ない。
- ・資金面の不足
→「釜石まつり×観光」で事業を考えることで、行政が資金面で祭りに間接的に関わられる可能性が生まれる。

SDGs と祭りの関連、施策推進の考え方

祭りに関して直接的に言及されているSDGsのゴールやターゲットはない。祭りの起源を考えると、祭りは祭りを支える共同体を維持していくための公的な行事といえる4)。地域固有の文化や歴史と関わりのある祭りを通じた活動は、日本独自のSDGsへの取組を進める上で重要な範例になるものと考えている。

元々の共同体だけでは祭りを担いきれなくなっている釜石では、共同体が変容している。しかしこの逆境を乗り越えるために共同体をオープンな存在として開放し、多様な人々が共同体に加わることを可能にすることで、新しい共同体を形成して祭りを支えている。観光は多様な人々を呼び込むための有効な手段である。観光を通じて地域課題の解決に関わることが地域の祭りを継続していくための新しい共同体の形成につながる。こうした新しい共同体の形成が、重要な施策推進となる。

関係者との意見交換

➤ 一般社団法人マツリズムとの意見交換

マツリズム主催のプロジェクト参加後の2019年12月28日、マツリズムスタッフと意見交換を行った。

釜石まつりを支える共同体を維持するために、観光を手段として多様な人々を呼び込み新しい共同体を形成することの必要性和有効性をマツリズムのスタッフに訴えた。そのためには委員会のような議論の場を設けて、様々な団体が新しい共同体の形成に関して意見交換をする必要があるという意見が出た。しかし、新しい共同体の形成が必ずしもつながり人口の増加につながるわけではないという指摘を受けた。

➤ 釜石市との意見交換

釜石市のSDGsを扱う部署（オープンシティ戦略課）とメールで意見交換を行った。こちらにおいても、釜石まつりを支える共同体を維持するために、観光を手段として多様な人々を呼び込み新しい共同体を形成することの必要性和有効性を訴えた。フィードバックとして得られた意見を以下に箇条書きする。

- ・釜石まつりを支える共同体を維持するために、観光を手段として多様な人々を呼び込み新しい共同体を形成することは有効性であるという意見を得た。
- ・オープンシティ戦略課の施策の中に釜石まつりを含んだ施策がない理由として、「政教分離の原則の問題」「予算面での不足」「オープンシティ戦略のコンセプトに当てはまらない」といった意見が出た。
- ・祭りの担い手には、地元の人から地方の人まで老若男女問わず様々な人が適当であるという意見が出た。
- ・「釜石まつり×観光」の施策を考える上での課題として、様々な団体と協働するための議論の場が必要であり、政教分離の原則から市の祭りに対する関わり方を考慮する必要があるという意見が出た。
- ・観光を手段として釜石まつりの共同体を維持する施策推進を包摂性、統合性、参画型に当てはまると評価した結果、他の項目（普遍性、透明性と説明責任）も含んでいるのではないかと意見が出た。
- ・観光を手段として釜石まつりの共同体を維持する施策を推進する場合に協働してみたい団体として、「地元の企業」「一般社団法人マツリズム」が挙がった。若手大学も候補に上がると予測したが、名前は挙がらなかった。

要約 本章で示した第4章の要約を以下に記述する。

- 1) 釜石市の施策推進の検討では、マツリズムの釜石まつりのプロジェクトに参加し、現地でヒアリング調査等を行った。観光とSDGsの関係や祭りの起源を読み解き、新しい共同体の形成を検討した。元々の共同体だけでは祭りを担いきれなくなっている釜石では、共同体をオープンな存在として開放し、多様な人々が共同体に加わることを可能にすることで、新しい共同体を形成して祭りを支えている。観光は多様な人々を呼び込むための有効な手段であると言える。観光を通じて地域課題の解決に関わることが地域の祭りを継続していくための新しい共同体の形成につながる。また意見交換としてマツリズムスタッフに、観光を手段として多様な人々を呼び込み新しい共同体を形成することの必要性和有効性を訴えた。

大原学様をはじめ、一般社団法人マツリズムの皆様には、プログラム参加の際に現地でお手おかけただけではなく、年末のお忙しい中、本研究の意見交換の場を設けてくださり、貴重なご意見をご提供いただきました。心より御礼申し上げます。

プログラム振り返り

良かったこと

- 「海」と「祭」に対する事前事後アンケートを行ったことで参加者の変化が分かりやすかった
- 海プロの事業をテーマに参加者が修論を書いてくれた
- 2年連続の参加者（リピーター）、佐島からの連続参加者がいた
- 岩手大学の釜石キャンパスからの参加が2年連続であり仕組みかができ始めている
- 祭りの担い手の話をプログラムの中で直接聞くことができた
- 台風19号の影響で曳舟祭りが中止になってしまったが、プログラムに海要素を盛り込むことができた
- 参加者の体調不良というトラブルがあったが、リスク対応を行うことができた
- 当日スタッフとも企画段階から話をできていたので、プログラム中もスムーズに意思疎通を図ることができた

改善点/反省点

- 曳舟が中止になったため、プログラム通り行うことができなかった
- 体調不良のトラブルの際に移動手段がなくタクシー利用を余儀なくされたので、レンタカーなどの移動手段を確保しておくべきだった
- 釜石側での連携団体についてはあくまで「協力者」の扱っていたので、より積極的に自分ごととして巻き込めれば良かった
- 現地のプログラム協力者とのコミュニケーションがうまくいかず、当日になってスケジュールを変更しなければならない時もあった

今後に向けて

- 大学生の学びを活かす（還元する）工夫を行い、地域へのインパクトを高める施策を考えてもいいかもしれない
- （台風のため実現できなかった）地元漁師の新規曳舟参加&日本財団の大漁旗を実現させたい
- 地元の連携団体が主体となってプログラムを運営する体制づくりを行う
- 万一の時に備えて、参加者には緊急連絡先を事前に聞いておく

イベント概要

タイトル	海の祭大会議2019
目的・ねらい	日本全国の「海にまつわる祭の担い手」が集結して交流する、日本で初めての試み。各地の祭の魅力を知り、それぞれの祭の発展や未来をつくっていくための意見交換を行い、これまで知らなかった「海の祭」の魅力と可能性を探り発信していく場。
日程	2019年12月7日
開催場所	日本財団ビル8F（東京都港区赤坂1-2-2）
参加人数	49名（海の祭の担い手・大学生・社会人。釜石現地コーディネーター1名、当プログラム参加者7名を含む。）
報告方法	イベント内今年度のプロジェクト、体験プログラム実施報告にて、マツリズム代表より本プログラムの内容・成果についてイベント参加者へ向けて発表。釜石の現地コーディネーター1名と参加大学生1名にも登壇してもらい、感想に加えて地域や自分自身の意識にどのような変化があったかを発表してもらった。
告知方法	「海の祭ism」プロジェクトで今年関わった祭の担い手と体験プログラム参加者へ直接連絡（メール、SNS等）

実施内容

- 16:00 受付開始
- 16:30 開会・オープニング
 - 第1部 ゲストトーク
 - 第2部 海の祭ismプロジェクト報告
 - ・海の祭体験プログラム
 - ・祭りの実態調査結果
 - ・海の祭訪問／取材
 - 第3部 祭の課題解決ワークショップ
- 19:00 懇親会
- 20:00 終了



実施報告会について

当日の様子（海の祭大会議体験プログラム実施報告）

2019年度プロジェクト報告



体験プログラム実施報告



釜石現地コーディネーター 登壇



釜石まつり参加大学生 登壇



釜石の大漁旗が会場を飾る



WSで意見交換する釜石まつり参加者

